

県立工業技術センター研究課題評価シート【平成 22 年度】

[ 事後評価 ]

	研究課題名	研究の概要	評価結果及び委員からのコメント	提案機関へのアドバイス
	主担当部署			
	研究期間			
4	<p>吊り下げ電極による曲がり穴放電加工法の開発</p> <p>ものづくり開発部</p> <p>平成 21 年度 ( 1 年間 )</p>	<p>考案した曲がり穴加工技術は、球状の電極を細導線で吊り下げ、重力方向へ加工を進める特徴がある。加工速度、許容電流、球の直径、球の振動などの要素を検討し、吊り下げ型電極を用いた放電加工の加工特性を明確にするとともに、曲がり穴加工への適用を試みた研究。</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先行特許がある。当該研究は 8mm 直径で初歩的。目標設定の容観的な評価がもう少し欲しい。</li> <li>初期の目標はほぼ達成し、有益性も高いが、幾つかの課題が残されている。</li> <li>ニーズはあるし、アイデアを生かした技術として今後の展開、成果が期待される。</li> <li>曲り穴加工法を独自に考案し、おもしろい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業との連携を深める必要がある。</li> <li>より小さな直径でのトライをしてほしい。</li> <li>特許を早く得て、実用化を目指すべき。</li> <li>重力だけでなく、別のやり方も考えるべきではないか。先行特許との関係もあるが、抜け道をさがす必要もある。</li> <li>外部機関や企業との共同研究を行うためにも、企業の先行特許を比較検討し、早急に知財化を検討されたらどうか。</li> </ul>
5	<p>衣料用織物に適した顔料染色技術の開発</p> <p>繊維工業技術支援センター</p> <p>平成 21 年度 ( 1 年間 )</p>	<p>「低コスト・短納期・高品質で環境配慮にも対応した織物試作システムの開発」において、短時間に糸が染色できる顔料染色の確立が急務である。衣料用織物は、柔軟性に加え耐摩擦、耐洗濯、耐日光等の高い堅牢性を必要とするため、顔料染色の欠点である堅さや低堅牢性の向上を目指した研究。</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県内だけでなく県外企業への波及が可能。</li> <li>開発研究課程において幾つかの具体的な課題が明らかになっており、評価できる。</li> <li>少色ではあるが目標を達成している。効率性も問題なし。</li> <li>染色時間の短縮が可能となった点は評価できる。</li> <li>環境に配慮した工程を独自に考案している。</li> <li>業界のニーズに合った技術であり、その期待に応えられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続した開発・支援をお願いしたい。</li> <li>多くの色への応用を期待する。</li> <li>実用を目指した開発を進めてほしい。</li> <li>共同研究を行うこと。</li> <li>染料染色品の代替ではなく、顔料染色品の特徴を生かした製品開発も目指してはどうか。</li> </ul>

県立工業技術センター研究課題評価シート【平成 22 年度】

[ 事後評価 ]

	研究課題名	研究の概要	評価結果及び委員からのコメント	提案機関へのアドバイス
	主担当部署			
	研究期間			
6	<p>ニホンジカの製革技術の開発</p> <hr/> <p>皮革工業技術支援センター</p> <hr/> <p>平成 21 年度 ( 1 年間 )</p>	<p>農林業に被害を与えているニホンジカを捕獲し、当該ニホンジカの有効活用を図ることが課題となっている。そこで、シカ皮の有効活用を図るための製革の技術開発研究である。シカ皮の製革技術の更なる展開としてクロム鞣し技術の開発研究を行った。</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的・必要性・有効性は認められるが制約条件が多く残っている。</li> <li>・鹿の総合的な利用の一環として有用である。</li> <li>・ニホンジカを原料皮とする必要性が乏しい。</li> <li>・地場産業の支援・資源の有効活用に必要な研究であり、公的研究機関として行うべき研究である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シカ皮の安定供給、肉の利用など総合的な検討が必要である。</li> <li>・兵庫県が産学官全体で、この開発技術を支援する必要がある。</li> <li>・原料確保のための体制整備が課題とのことだが、体制が整うまでに要素技術の確立を期待している。</li> <li>・特徴をうまく利用し、商品化を目指した用途開発を考えてほしい。</li> </ul>